

看護師としての自覚と責任を胸に
市立本渡看護専門学校・戴帽式



▲教員が学生ヘナースキャップを付けるようす

市立本渡看護専門学校で、学生に看護師としての責任と自覚の意識を高めてもらおうと10月17日、「戴帽式」が行われました。半年間、看護の基礎を学んだ1年生38人が、教員からナースキャップを付けてもらった後、火をともしたキャンドルを手にナイチンゲール誓詞を朗唱。その後、学生を代表して畑口美優さんが誓いのことばを述べ、決意を新たにしていました。

海と山の幸が大集合
天草ごっつお市



▲みかんの詰め放題をする来場者

「天草ごっつお(ごちそう)市」が10月21日・22日、熊本市中央区花畑町の花畑広場で開かれました。市が特産品をPRしようと開催したもので、牛深の海の幸・山の幸をメインにして、市と交流連携協定を結んでいる高森町の農産物を販売。また、みかんの詰め放題やいりこのつかみ取り、同21日には牛深ハイヤ桃の会による牛深ハイヤ踊りも披露され、多くの人出でにぎわいました。

個性豊かな陶磁器が集結
天草大陶磁器展

県下最大級の陶磁器展「第12回天草大陶磁器展」が10月31日から11月4日まで、天草市民センターを主会場に開かれ、期間中約1万6,000人が来場しました。県内外の90の窯元や陶芸家の個性豊かな作品25,000点を展示・販売。今回は“コーヒー”をテーマとした講演や映画上映などが行われたほか、“陶磁器の島AMAKUSA陶磁器コンテスト作品展”(結果は下表参照)や、ろくろ・絵付け体験、市内各地の芸能披露、地元の物産の販売なども行われ、多くの人出でにぎわいました。



▲陶磁器の品定めをする来場者



▲ろくろ体験を楽しむ来場者



▲「壺中ナイトスワイマーズ」
グランプリ作品

陶磁器の島AMAKUSA陶磁器コンテスト作品展結果 (敬称略)

- グランプリ…馬岡智子(大阪府)
- 小川哲男賞…白石昌弘(鹿児島県)
- 金憲鎬賞…前田博子(長洲町)
- 準グランプリ…木ユウコ(上天草市)
- 藤原恵洋賞…金澤宏紀(北原町)
- 来場者賞…山下智穂(阿蘇市)
- 日比野克彦賞…亀山サ苗(天草町)
- 鶴田一郎賞…山口友一(長洲町)

美しい灯ろうの明かりを楽しむ!
御領石竹秋宵まつり



▲たくさんの灯ろうに火が灯された会場

10月24・25日、「第11回御領石竹秋宵まつり」が五和町の門前町商店街一帯で開かれ、市内外から5,500人が来場しました。御領まちづくり振興会が毎年開催しているもので、地域住民などが作った竹・御領石・陶器の灯ろう8,000個を設置。灯ろうに火がともされると、会場一帯は幻想的な雰囲気包まれ、来場者はきれいに並べられた美しい灯ろうの明かりに見入っていました。

標的に向けて勢いよく放水!
屋内消火栓操法大会



▲競技のようす

「第16回屋内消火栓操法大会」が10月31日、天草広域連合消防本部(本渡町広瀬)で開かれ、天草地域の事業所など20チームが参加しました。競技は3人1組で行われ、操作開始から標的に向け放水し標的が倒れるまでのタイムや動作の正確性などが競われ、参加者はきびきびとした動作で行っていました。結果は、男子は特別養護老人ホーム翔洋苑(上天草市姫戸町)、女子は特別養護老人ホーム新和苑(新和町)が優勝しました。

地元の自然遺産の理解を深めよう!
御所浦小学校・化石セミナー



▲学芸員の解説を聞く子どもたち

10月30日、御所浦町で「化石セミナー」が開かれ、御所浦小学校の5・6年生32人が参加しました。地元の自然遺産の理解を深めてもらおうと、市が主催したもの。児童たちは、御所浦白亜紀資料館で同町近海に生息する魚介類のはく製や骨などを見学し、学芸員の「ヒトデとウニは同じ仲間」などの説明に興味津々で聞き入っていました。このほか、同町の外平地区の海辺での化石採集やクルージングなども体験しました。

約5,000人が来場し大盛況
栖本かっぱ祭り



▲栖本かっぱ太鼓を披露する栖本小学校児童

「第17回栖本かっぱ祭り」が11月1日、栖本総合グラウンドで開かれました。栖本地区振興会が、交流人口の増加などを目的に毎年開催しているもの。ステージでは、保育園児の“へのかっぱ音頭”や“かっぱダンス”、栖本小学校3年生の“栖本かっぱ太鼓”が披露されたほか、天草大王の串焼きなどの食品バザーやもち投げを実施。家族づれなど約5,000人が来場し、大盛況でした。